



笹小だより No. 5

令和 4年 8月 29日

横浜市立笹野台小学校

「地域の夏祭りに参加させていただいて」

校長 飯田 雅人

保護者の皆様には、7月31日にメール配信でもお伝えしましたが、今年の地域の夏祭りには、6年生の子どもたちが自分たちで笹野台の町を盛り上げるために何かできることはないかと考え、笹野台地区連合自治会の皆様のご協力のもと、クラスごとに出店させて頂きました。1組は「スーパーボールすくい」と「くじ引き」、2組は「空気砲でおばけ退治」と「ビー玉迷路」、3組は「射的」と「ヨーヨー釣り」でした。当日は16時から19時までの間で2チームに分けてのシフトとなりました。各チームとも役割や責任を考えながら動いていました。お祭りに来た地域の方々がたくさん子どもたちの出店に来てくれて長蛇の列になりました。てきぱきと動く様子、小さい子どもへの対応の様子等、臨機応変に動く姿に大きな成長を感じました。この経験を通して、地域を大切にす気持ち、協働して取り組むことの大切さ、やり遂げることの大切さを感じることができました。さあ、夏祭りで出店した後の活動、どうなっていくのでしょうか？担任とともに今日からまた考えていくのでしよう。今後が楽しみです。

感染拡大の不安の中での活動でしたが、コロナ禍が続く中、3年ぶりに開催された夏祭りは、子どもたちにとってはもちろんのこと、お子様の様子を写真や動画に収めていらっしゃる保護者の皆様の様子を拝見し、かけがえのない体験、そして夏の思い出になったのではないかと思います。ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。私自身も多くの笹小の元気そうな卒業生と久しぶりに話をすることができたこともあり、おかげさまで素敵なひとときを過ごさせていただくことができました。



さて話は変わりますが、私は夏休み中にこんなことを考えていました。コロナ禍の中で「ソーシャルディスタンス」という言葉がよく使われます。これは「身体の物理的距離」のことです。それに対して「心のソーシャルディスタンス」いわゆる「心の距離」というものもあると思います。「心の距離」は、遠いよりも近い方がよい「ソーシャルディスタンス」です。子どもたちは、この「心の距離」が近い人を相手が大人であっても、子どもであっても好きな人ととらえます。自分にとって都合のいい人を好きな人ととらえているわけではないと思います。ずいぶんと厳しいことを言われても好きな人がいれば、優しい言葉をかけてもらっても嫌いな人がいるかもしれません。これは、子どもたちが直感的に「この人は自分を大切にしてくれる人か」「自分の心の声を聴いてくれる人か」を判断しているからではないかと思えます。

子どもと接する大人（教職員も保護者の皆様もどちらもです）は、子どもとの距離を近いものにし、子どもたちにとって好きな人と認識してもらうことが必要です。そのためには何を心掛ければよいのでしょうか。それは、「子どもの声を聴く」「子どもに寄り添う」ことです。言葉では簡単に言うことができますが、最近はこのことが本当に難しいことであると感じています。言葉にならない声を拾い上げ、押し量り、包み込むようにして子どもと接していくことが求められます。そして子どもたちがふっと漏らした「本音」を拾い上げていくこと、受容していくことで信頼関係が築かれていきます。

そのためには、以前に比べると子どもを育てていくことは、ある種「忍耐」も必要であると、夏の終わりに感じる今日この頃です。